



とちぎ協働デザインリーグは、
協働のまちづくりの調査研究、
支援・協力、政策提言等を行う
シンクタンクです

〒320-0032 宇都宮市昭和 2-2-7
とちぎボランティアNPOセンター内
URL: <http://www.tochigi-tcdl.net>

とちぎ協働デザインリーグ
TOCHIGI COLLABORATION DESIGN LEAGUE

今年度、新たな体制でスタートした「とちぎ協働デザインリーグ」。藤本前理事長（現顧問）からバトンを引き継いだ三橋新理事長に、就任にあたっての想いなどを伺いました。

とちぎ協働デザインリーグのこれから (その1) 理事長 三橋 伸夫

去る5月21日のリーグ理事会・総会において、理事長をお引き受けし承認いただいた。想えば、平成19年1月に「とちぎ協働デザインリーグ」を立ち上げ、同年4月より栃木県が設けたとちぎボランティアNPOセンター（愛称ぽぼら）の管理運営を受託して今年度で10年になる。さらに遡れば、ぽぼらは平成15年11月に「自立・協働・社会参加」をコンセプトに開設され、第一期の3年半を管理運営した栃木県NPO協会からリーグが引き継いだ。

リーグの前身は「とちぎNPO研究会」であり、資料が散逸してしまい定かではないが、栃木県においてNPO活動の環境整備について気運が高まってきた15年に発足した。前理事長藤本信義氏（宇都宮大学名誉教授）、廣瀬隆人氏（現北海道教育大学教授）と私の3人が中心になって、NPO・ボランティアに関する全国動向をふまえ県内の動きをまとめて、栃木県にふさわしい協働のあり方を追究したのが始まりである。県文化振興課との「協働」により刊行した、『協働・人がつながる空間』（平成16年3月）、『創造・協働の森へ』（平成17年3

月）、さらにリーグ設立後の『協働の万華鏡』（平成20年3月）などは、こうした活動の成果と言える。

こうした古い話を持ち出すのは、リーグのこれからを考える上で「原点」とこれまでの「軌跡」を確認しておくのは重要だと思うからである。個人的な話で恐縮であるが、私がこの領域に足を踏み入れたのは、平成7年の阪神淡路大震災の復旧・復興に全国から多くのボランティアが駆け付けたのを目の当たりにしてからである。私自身も何とかしたいという衝動に駆られた。大学に身を置くのであればと研究の領域にエネルギーを注ぐことにし、英国の友人から話を聞いていたグラウンドワーク及びチャリティ団体の活動を調べることから始めた。平成8年のことである。それからテーマは少しずつ変わったが通算11回英国を訪れた。並行して、国内のNPO・ボランティアに関する調査研究を手がけて今日に至っている。

英国におけるチャリティ団体の歴史は古く、現在は全国18万団体ほどであると聞く。グラウンドワークはその1つで、サッチャー保守党政権の誕生とほぼ期を一にし、いわば新自由主義政策の中で行政のエイジェンシー化などとともに「ちいさな政府」をカバーする公設の新しいチャリティとして、脱重化学産業後の環境整備を基軸とする活動を展開している。自治体の機能は効率化追求の結果として縮小し、例えば、同程度の人口規模であれば予算は日本のほぼ1/3程度まで縮んだ。日本の政治は、明らかにこうした英国の先事例に学んでいる。ポスト工業社会の情報と金融に経済の活路を見出そうとしている英国は、確かに将来の日本を考える上でひとつのモデルを提示する。しかし、私は教育や福祉を切り詰めてまで経済成長を追究し、NPO法人やボランティア団体は行政を補完する「新たな公」と見なす「安上がり政府論」については疑問をもつ。

成熟した日本社会におけるNPO法人やボランティア団体の必要性は論をまたないが、その理由はちいさな政府の肩代わりではなく、主体性をもつ自立した市民の成長、さらには、個人の人権、自由が尊重される多様な価値観が共存できる民主的な社会の追求に求めなければならないと思う。とちぎボランティアNPOセンターは、そうした個人と社会のあり方を見守り方向づける役割をもち、その管理運営を引き受けるとちぎ協働デザインリーグは、社会の動向をふまえた上で中間支援団体としての確かな活動を組織していかなければと考えている。

平成 28 年度事業計画の概要

1. とちぎボランティア NPO センター管理運営業務

(栃木県県民文化課)

今年度は、とちぎボランティア NPO センターの管理運営を受託(3回目)して2年度目となる。市町中間支援センターとの連携強化や県域センターとしての機能拡充に努めていく。

2. 栃木県コミュニティ協会研修等業務

(栃木県コミュニティ協会)

地域コミュニティ活動に意欲的な人材を育成する。今年度は「コミュニティの元気づくり～歴史・文化・自然を活かして～」をテーマに、県北・県西での地域勉強会、県央での全体勉強会の全3回開催し、貴重な資源を地域の魅力向上やコミュニティの元気づくりに更に活かすための方策を多様な視点から探る。

3. 栃木グリーンツーリズム推進事業

(栃木県農村振興課)

県内のグリーンツーリズムに取り組む団体や個人を繋ぐネットワークを構築することで、情報の共有化や交流を図り、実践者同士の連携の場を目指す。

長期滞在型交流へ発展させるために、受入態勢の強化を行い地域活性化につなげる。また、ホームページと SNS を利用した会員専用ページの運営を行い、会員情報を充実させて会員同士の連携を強化する。

- ① グリーン・ツーリズムネットワークの運営
- ② 情報発信 (HP 管理・会員情報充実)

4. 若者の社会貢献活動参加促進事業

(栃木県県民文化課)

既存セクターと連携して若者の社会貢献活動への興味・関心を引き出し、地域における社会貢献活動の担い手の確保・育成を図る。

同時に、県内の中間支援センターや社協などの「つなぐ窓口」の存在を周知し、地域団体や NPO 等の活動の活性化へつなげる。

5. 企業の協働参加促進事業 (栃木県県民文化課)

企業は、人材、資金、地域とのつながりなどをもち、協働における重要な役割を担っている。経

済団体や市町中間支援センターと連携を図りながら、企業の協働への参加を促進していく。

- ① 企業経営者・従業員向けセミナー (3回)
県内経済団体と協力し、経営者・従業員向けに社会貢献活動や NPO 等との協働の意義の説明、事例紹介等を行い、企業の協働への理解促進と参加を促す。
- ② 企業と NPO 等との協働説明会 (1回)
社会貢献活動、協働等に関心のある企業の担当者を対象に説明会を実施し、併せて NPO 等と企業との協働事業相談会を実施する。

6. 中山間地域元気創出事業 (栃木県農村振興課)

農地の荒廃や集落機能の低下が進行している中山間地域と、地域貢献に関する取組に関心が高まる企業が連携した地域づくりや協働活動等を支援し、継続的な交流人口の増加と地域の活性化を図る。

- ① 連携活動仲介役の体制整備
- ② 連携企業・地域の発掘登録
- ③ マッチング検討・実践の補助

7. とちぎコミュニティ基金 (事業協力)

がんばる NPO と支援者をつなぐため、「寄付の窓口」と「NPO による情報公開の促進」の2つの機能を持ち、「民が民を支える仕組み」づくりを行う。

- ・寄付ハイク
- ・冠ファンド助成 「花王ハートポケット倶楽部地域助成 (栃木地区)」の実施

8. 講師派遣

リーグの特徴をより効果的に活かすために、今年度は、ぽぽら事業の「テーマ別 NPO ミニサロン」と連携して、講師派遣を重点的に行う。

9. 情報発信

ホームページやブログ、フェイスブックの運用及び「リーグファイル」を発行し、調査研究等で得た情報を提供する。

10. 団体運営

理事会・総会及び団体運営に係る事務を行う。

社会的課題解決による中小企業の新たな価値の創造

とちぎ協働デザインリーグ 研究員 山下 典江

社会的課題の多様化・複雑化・深刻化は行政のキャパシティをはるかに超え、対応の困難性は増大する一方です。地域社会の様々な課題に向き合うには、多様な主体による幅広い視野と柔軟な対応が求められています。そんな中、社会的課題解決の担い手として、地域に根付く中小企業への期待が高まっています。そこで、企業の持続的成長への価値創造の新たな視点として、社会的課題に着目することの有益性について考えてみました。

1. 三方よしの精神とCSR

企業理念に「三方よし」の精神を取り入れる企業は多くみられます。「三方よし」とは企業活動のルールとされる近江商人の経営の精神であることは言わずと知れたところです。近江商人のビジネスは「持ち下り商い」、すなわち上方の商品を地方へ、地方の商品を上方へ販売しながら持ち帰る両方向の行商が基本でした。いわゆる「よそもの意識」を持たれがちな商売形態ゆえに、適正な利益と顧客満足に加え、地域社会への貢献が不可欠として、やがて経営理念として深く根づいていったようです。すでに江戸時代から、事業の永続性の確立には、企業の社会貢献への考えが不可欠であると捉えられていたのです。

これはまさに、CSR（Corporate Social Responsibility）の考え方の原点であり、CSRを重視し企業価値を高める経営は、今では優良企業を推し量る物差しとなっています。

2. CSRの捉え方の変化

従来のCSRの考え方は、企業の社会的存在価値の説明責任に應えるといったものでした。CSRを雇用、納税、コンプライアンスの順守などで社会責任を果たすといった「責任と信頼」の目線で捉えていました。それはいってみれば「企業価値の防衛」といった「守り」の発想であり、そのような発想は、例えば社会貢献活動を非営利で公益性のある活動として限定的に捉え、余裕のある企業からの一方的な支援活動といった傾向になってしまいがちです。もちろんそこには企業イメージアップなど一定の

事業活動への波及効果は期待できます。しかし、限られた経営資源の中で事業を営んでいる企業、業績への即効性を期待する企業としては、取組に消極的にならざるを得ないのも事実です。一方で、昨今では、CSRを、顧客に選ばれるための積極的活動といった「企業価値の創造」という捉え方をする流れが進んでいます。そこには社会問題をビジネスの手法で解決し、企業の持続的経営のチャンスを見出す「攻め」の姿勢があります。

3. 「社会価値の創造」と「企業価値の創造」

昨今、社会的課題を解決しながらビジネスに直接つなげるというケースが徐々に増え始め、ソーシャル・ビジネスやコミュニティ・ビジネスなどの社会的起業やCSV（Creating Shared Value：共有価値の創出）が注目されています。中小企業白書でも2014年、2015年と2年連続で取り上げられており、CSVの考え方は、地域に根差し地域に密着して活動する中小企業・小規模事業者にとって、持続的成長へ向けた新たな活路を見出す可能性を示唆しています。

4. 最後に

将来の事業展開に不安を抱える中小企業が社会的課題にビジネスの種を見出し今後の事業に活かすことは、地域に根差した中小企業ならではの事業活動なのかもしれません。それは、従業員の物心の豊かさの実現と自社の持続的成長、顧客への新たな価値の創造、そして元気で安心な地域社会づくりへの貢献といった、まさに「三方よし」の経営の実現であり、「Win-Win-Win」の関係の実現に他ならないのです。

幸いにもこのようなことに関われる環境は本当にありがたいと感じています。「寄り添い・共感・共創」を自分のキーワードに、社会的課題に目を向けながら、私なりの関わり方で、新たな価値の創造、関わる人たちの心豊かな日々の暮らしの実現に微力ながらも役立てるよう、さらに自己研鑽に励んでいきたいと思えます。

（診断とちぎ 74号 2016.8発行 寄稿文より一部抜粋）

◆8～10月 関連事業のお知らせ◆

- 8月 18日(木) 会計基礎講座その2 (ぼ・ぼ・ら)
- 9月 1日(木) 会計基礎講座その3 (ぼ・ぼ・ら)
- 9月 3日(土) 第1回コミュニティカレッジ(日光市門前地区)
- 9月 14日(水) 専門家相談会～会計税務～ (ぼ・ぼ・ら)
- 9月 16日(金) テーマ別 NPO ミニサロン①～中山間地域の振興～ (ぼ・ぼ・ら)
- 10月 4日(火) テーマ別 NPO ミニサロン②～グリーン・ツーリズム～ (ぼ・ぼ・ら)
- 10月 15日(土) 若者の社会貢献活動参加促進事業(県央)
- 10月 16日(日) 第2回コミュニティカレッジ(大田原市須賀川地区)
- 10月 25日(火) 経営者・従業員協働セミナー(仮称) (栃木県庁)
- 10月 27日(木) テーマ別 NPO ミニサロン③～子ども食堂～ (ぼ・ぼ・ら)

各事業の詳細は、
ぼ・ぼ・らホームページを
ご覧ください。

<http://www.tochigi-vnp.o.net/>
TEL:028-623-3455

役職員等一覧

新任スタッフ紹介

5月21日の「とちぎ協働デザインリーグ総会」において役員改正が行われ、新体制になりました。

○役員

- 顧問 藤本 信義
- 理事長 三橋 伸夫
(とちぎボランティアNPOセンター所長)
- 副理事長 結城 史隆
- 副理事長 西田 直樹
- 常任理事 石原 栄子
- 理事 大石 剛史
- 理事 水谷 正一
- 理事 中村 祐司
- 理事 橋立 達夫
- 理事 粕谷 圭司
- 理事 石河 不砂
- 理事 高橋 俊守
- 理事 和田 佐英子
- 監事 安納 宏和

○新規会員

- 赤羽 幸雄
- 旭山 友里

○とちぎボランティアNPOセンター
担当スタッフ

- 主任研究員 小針 協子
- 主任研究員 小林 有見子
- 研究員/広報編集担当 横塚 恭宏
- 研究員/事務統括担当 黒田 葉子
- 研究員/協働推進担当 山下 典江
- 研究員 小松 玲子
- 研究員 安納 彩一
- 相談員 伊東 延乃

○研究協力員

- 本庄 宏行
- 旭山 友里
- 鈴木 智
- 土崎 雄祐
- 大波 龍郷
- 町田 英俊

黒田 葉子

明るく元気に思う存分に



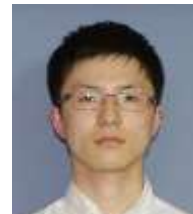
山下 典江

心豊かな未来をめざして!



安納 彩一

捲土重来をモットーに



☆編集後記☆ 猛烈な暑さが続く日本列島ですが、リオ・オリンピックが開幕し、栃木県出身の萩野公介選手が個人メドレーで金メダルを獲得! というビッグニュースも舞い込み、一気に元気回復しました。しばらく間が空いてしまったリーグ・ファイルですが、新たにスタートいたします。皆様からの情報提供もお待ちしておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。(K)